

		によって卒業要件単位を満たそうとすることも多くみられる。このことが、現代コミュニケーション学科において基礎科目は不可の割合が多くなった原因と考えられる。
--	--	--

基準II・A・3 入学者受け入れの方針を明確に示している

ページ	質問	回答
P35	授業欠席3回以上の学生について4者面談をしているが、実際の頻度と教員の負担に問題はないか。	<p>当該の質問は、前半部分に誤解を招いた可能性がある。3回以上の欠席でいきなり四者面談ではなく、その欠席状況がゼミ担任に報告され、保護者にもその旨通知が送られる。ゼミ担任は学生の様子を勘案しながら適宜指導している。</p> <p>多數科目での欠席がかさんだり、継続的に登校していない形跡がみられたりした場合は、保護者の呼び出しを含めてより踏み込んだ実態把握と指導を展開するケースもある。実際には欠席という要素のみで四者面談にまで至るケースは少ない。</p>
	転学科を周知するに至った経緯は。転学科の実態は。	<p>転学科は、以前から学則上可能であったが、それを知つておらず、実際に検討することは教員、学生ともほとんどなかった。また、進路変更によって退学することは、学歴や本人の心情などさまざまナデメリットが存在する。保育学科学生で実習科目等で挫折した学生について「ゼロ免」の形で卒業することは制度上可能になっている。しかしそうした学生は幼稚園・保育園に就職することはできない。一般的の就職のためには転学科の方が有利であると認識されている。</p> <p>学生自身にとっても進路選択の幅を広げることにもつながるため、制度を整理し、学生必携に記載して周知するようにした。</p>

基準II・A・4 学習成果の査定（アセスメント）は明確である

ページ	質問	回答
P35	検定資格取得の現状をどう考えているか。 関連の科目を含め、支援の内容はどんなものか。学生への奨励の度合いは。	<p>保育学科としては、基本原則は「幼稚園教諭免許と保育士資格のダブル取得」であり、認定ベビーシッターノの取得や、ピアヘルパー試験の受験資格は、あくまで学生自らの希望でつけることができる付加価値を用意しているというスタンスである。</p> <p>アナウンスはしているが、付加価値の取得を目指すことでさらに負担がかかることにもなりかねないので、意思や希望が強い学生の受け皿になればと考えている。</p> <p>検定資格に関して、以前に比べて取得学生が減少していると思われる。その理由として、自発的な努力が必要だったり、検定料が必要だったりすることに対して、現在の学生はネガティブにとらえることが増えているように思われる。</p> <p>さらに、検定資格を取得するだけでは就職に直接結びつかないという現状も原因の一つとして考えられる。しかし、検定資格取得のために行なった努力は就職活動におけるアピールポイントになり、短大での学習への動機づけにつながることも事実である。</p> <p>そのため、現代コミュニケーション学科として、できるだけ多くの検定や資格を取得できるように関連科目を工夫し、学内で実施できる検定などは担当教員が監督をする、検定前には試験対策を実施するなど、さまざまな支援を行っている。</p>

		また、1年次のオリエンテーション時に現代コミュニケーション学科で取得可能な検定資格の一覧表を用いて内容を説明し、受付時には学生全員に連絡することで取得を奨励している。
P36	<p>「社会で役立つ教養教育」と諸資格の取得との両立をどのように実現していくことが可能か。</p> <p>学生のニーズに応えた免許・資格の導入について 免許と資格について、「さらに多くの免許・資格の導入を検討することも必要である」と記載されている。 それにつきまして具体的にどのような免許・資格の導入を検討されているのか、具体的な免許・資格の名前を可能な範囲で教えてください。また新しい免許・資格の導入を検討する場合、学内のどなたが主導的に進めているらっしゃるのか、導入した場合の募集から認定（あるいは検定）等の事務体制はどのようになさっているのか教えてください。</p>	<p>学生には、将来の就職に直接つながるものとして諸資格をとらえているのに対し、教養教育は社会で役立つとは考えていないものが多い。しかし、卒業後に社会で仕事をし、家庭生活を送る上で、教養教育で得られる知識が実際には必要不可欠であり、諸資格はそのためのツールであることも事実である。このことを学生に伝えるだけでなく、教養教育の中で実際生活への具体的応用例などをあげ、学生自身が教養教育の重要性を認識することが、これらの両立を実現することにつながるのではないかと考えられる。</p> <p>平成24年度に新たに導入した資格はないが、平成25年度よりスポーツ科学コースが新設されることをふまえ、日本体育協会公認スポーツ指導者資格を取得できるように、関連科目を開講する予定である。</p> <p>新しい免許・資格の導入については、関連科目教員が学科に提案し、学生に対する有効性を審議した結果によって導入を決定している。</p> <p>導入した場合、申請の受付、申込みなどは事務局教務課が担当している。</p>

基準II-B 学生支援

基準II-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している

ページ	質問	回答
P39	<p>「アチーブメントテスト」による補習講座は単位として認定していますか。また、それに該当する学生数の割合はどの程度か。</p> <p>アチーブメントテストとBasic Studying の取り組みの成果についてお教えいただきたい。また、高校の補習講座の科目履修による単位を卒業単位として数えておられる点で、短大としての到達度に影響はないものかについても、お教えいただきたい。</p>	<p>(基準II-A-1のP22の質問への回答も参照) 「Basic Studying」は全学共通基礎科目に配置され、卒業単位として認定している。保育学科としてこの科目は、單なる補習というよりも、就職に直結する適性検査受験に向けた就職支援と学生の保育者としての基礎的力量の向上の一環として位置づけている点をご理解願いたい。</p> <p>「アチーブメントテスト」の補習講座として Basic Studying を基礎科目の中で開講し、到達目標を達成することで 1 単位を修得することができる。現代コミュニケーション学科の場合、テスト結果の下位 20%を選定し、オリエンテーション時に履修指導を行っている。</p> <p>この科目を卒業単位として数える点については、高校の補習講座としてだけでなく、短大における学習や就職活動など進路選択に必要な基礎学力の獲得としてとらえているため、短大としての到達度の 1 つと考えている。</p>
P40	補習講座の受講後の学習効果をどう受け止めているか。	<p>基準II-A-1のP22の質問への回答を参照。</p> <p>補習講座の受講後は、学生自身の理解への自発的な動機づけが生じていると思われ、他科目の受講態度や積極的な取り組みにつながっていると受け止めている。</p>

基準Ⅱ・B・2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている

ページ	質問	回答
P41	学生の表彰制度に関する具体的な例をお教えいただきたい。	<p>表彰制度について；</p> <p>「成績優良賞」は、学業成績が優良で、人物的にも模範的な学生が毎年選出され、学位記授与式時に表彰している。実態としては、その候補の中でも最良の者が「学園長賞」を与えられる。一方、「特別賞」は、学業成績には特に拘泥せず、課外活動等で特にめざましい成果をあげて、本学の名声を高めたり、地域に貢献したりした個人あるいは団体に与えられる。部活動が団体で受賞するケースが多い。</p> <p>また、奨学金支給制度として、特に学業成績優秀で、人物に優れ、他の学生の模範と認められる者を奨学生とし、学生表彰を行っている。</p>
	(巻末資料より) 1 単位科目が多数設定されていることは是非について、前回の相互評価以降どのような議論があったのか、お教えいただきたい。 [H19 相互評価報告書 P25 に同様の質問あり]	1 単位科目が多数設定されていることについて； 前回の相互評価以降、保育学科では、学生の負担や、それゆえの課外活動の不活性化に対処する必要性について議論がなされた。その結果、必修であった数科目を選択必修に変更した。また、必修であった「情報演習Ⅲ」「IV」を廃止した。一方、その他の多くの演習 1 単位科目は、むしろ本学の特色であるとプラスに捉えて、存続させている。

基準Ⅱ・B・3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている

ページ	質問	回答
P42	サークル活動は前回と変わらず活発であるが、活動支援のポイントとは何か。その秘訣はどこにあるか。	活動支援のポイントは、大学として、外部より専門の指導者を招聘するなど、活動レベルの高低差を考慮し、活動予算などを含めた支援を行っている。
	クラブ活動の状況について、軽音楽、和太鼓クラブの活動は大きな音を出しますが練習場をどのように確保し、また、楽器、機材の保管場所をどのようにされているのか。	大きな音を出す和太鼓部については、学内敷地内の校舎から離れた校庭の外れに、専用のプレハブを設置し、楽器とともに保管して、毎日練習できるように、専用設備を整え支援を行っている。
P43	保健室の利用状況はどうか。また、学生食堂の混雑回避の工夫としてなにが可能か。	保健室の利用状況は、1名の看護師が常駐し、健康に不安を訴える学生に対応している。23年度は、年間延べ859人が利用している。 <ul style="list-style-type: none"> ・症状別／内科系 199人、外科系 98人、婦人科 23人、皮膚科 32人、眼科 11人、その他相談等 496人 ・23年度は、学校生活に不安を抱えている1年生が昼休みに来室し、コミュニケーションをとる姿が多かった。 <p>学生食堂については、10時～14時30分の営業時間としており、利用は昼休みに集中するため、隣接するラウンジや屋外テラスも利用している。</p>
	売店の営業時間、学生さんの利用状況、運営形態を教えて下さい。	外部業者に委託、10時～16時の営業。飲料やパン・菓子等の軽食を販売しているが、学生たちは食堂代わりに便利に利用している。
	学生食堂は明るく清潔感を感じられる雰囲気とありますが具体的にどのような配慮がなされているのか。	建物は三方が総ガラス張りで採光に優れ明るい環境であり、また、テーブル・椅子も白を基調として清潔感を強調している。厨房は、外部業者には、食堂内のこまめな清掃を含め衛生面を重視した指導を行っている。

	<p>学生食堂の運営に関して、貴学の食堂は営業時間が長い、価格が安価になっている等、努力されている点を教えて下さい。</p>	<p>外部業者と契約締結により、運営委託しているが、メニュー・価格等について相談の上、安価で提供している。なお、今後はメニュー・価格等について利用学生アンケート調査等により、学生の要望に沿えるよう更なる向上を目指し、対応することとした。</p>
	<p>アパート等の斡旋体制について、情報を必要としている学生に対してどのようにして情報を与えていているか。また情報提供によるデメリット等ありましたら教えて下さい。</p>	<p>学校周辺の不動産会社数社と連絡を取り、学校や駅に近い学生生活に便利な物件の情報の提供を受け、地域別に冊子にして12月頃に入学予定者に郵送にて情報提供し、下宿選びの参考に供している。情報提供によるトラブル等もなく、特にデメリットは感じていない。</p>
P44	<p>420台分の無料駐車場完備については、充実しているとの印象であるが、それでも指導が必要であること、その具体例についてお教えいただきたい。また、スクールバスの運営方法についてもお教えいただきたい。</p>	<p>駐車場を利用しようとする者には自動車通学許可願を提出させ、登録することとしている。未登録者への登録指導、駐車禁止エリア（教職員駐車場や非常勤講師専用駐車場など）への無断駐車の取り締まりなどを通して利用マナーの徹底をはかっている。</p> <p>スクールバスは、自前運行を行っており、バスの整備、運転手のローテーション、運行時刻の決定等について事務局（管理課・学生課）が連携して行っている。高崎駅路線一日7往復、新前橋駅路線一日6往復を無料にて提供している。</p>
	<p>自家用車で通学している学生さんに対し、交通安全ルール遵守、運転マナー等の講習会等開いていますか。また交通事故等の対応はどうされているか。</p>	<p>自家用車通学の学生に対して、ルール厳守や運転マナーの講習会は実施していないが、入学当初より、学生必携およびオリエンテーション時に全体を通して指導を行っている。</p> <p>学生の交通事故等の対応については、年数回起きている現状を踏まえ、交通安全ルール遵守、運転マナー等の講習会等について実施を検討している。</p>
	<p>奨学金制度について、日本学生支援機構制度の利用と併せ生活困窮者への対応等されているがこの他に奨学金制度(給付、貸与)はあるか。</p>	<p>家計の急変などによって、卒業を目前にして学納金納入に困窮をきたしている学生に、学納金納入資金を貸与している。卒業を支援して社会に有益な人材を送り出すことを目的とした「育英短期大学卒業予定者奨学金貸与規則」を制定し、平成21年2月から施行した。 <毎年2名ほどの貸与者あり。></p> <p>また、この他に海外留学プログラムの推奨のため、「本学独自の補助金(10週間留学申請者に20万円)の支給」、「JASSO 留学生交流支援制度による奨学金」、「ぐんま国際教育財団による海外留学奨学金」の助成金制度により、留学・海外研修・英語力支援の推進を図っている。</p>
P45	<p>健康診断について、実施にあたって学校保健安全法第13条(児童生徒等の健康診断)との関連で学生さんにどのように周知徹底しているか。また実施要項(健康診断を受けるにあたつての注意事項)等ありましたら教えて下さい。</p>	<p>学校保健安全法第13条に基づく健康診断を毎年4月に実施している。</p> <p>全学年の学生に日時、注意事項等を記載した実要項を配布し、ほぼ100%の学生が受診している。</p> <p>なお、同13条第2項については、本学では規定されておらず、該当事例もないため実施していない。</p>
	<p>保健室での対応について、病的と判断された場合は、校医さんにみて頂くよう助言されていますが何をもって病的と判断されるのか。またその基準となるものを教えて下さい。</p>	<p>学校医への受診助言については、主訴やバイタルサインなどの状態、家族間や地域内での流行などを踏まえ、看護師が判断している。</p> <p>現在は心理学の教員や看護師が対応しているが、支援体制の充実に向けて、カウンセラーを配置した学生相談室の設置も考えていかなければならないと考えている。</p>
	<p>心理的に不安定な学生への、現時点での対応についてお教</p>	<p>現在は心理学の教員や看護師が対応しているが、支援体制の充実に向けて、カウンセラーを配置した学生</p>

	<p>えいいただきたい。</p> <p>心理的な悩み、心理的に不安定な学生に対し教職員の理解、連携の在り方、支援体制づくりについて何か具体的に考えているか。</p>	相談室の設置も考えていかなければならぬと考えている。
--	--	----------------------------

基準II・B・4 進路支援を行っている

ページ	質問	回答
P46	<p>就職状況について 非常に高い就職率を達成されていると拝察します。本学では、就職後の早期離職の予防や、短大生としての初期キャリア形成支援も大切ではないかと考えております。貴学では女子短大生独特の就業環境を踏まえた、離職防止、離職後のフォロー、キャリア形成支援などについてはどのようにお考えか。</p>	<p>保育学科では、実習やボランティアによって実際の仕事を体験するとともに、年に数回行われる園長などの講演によって幼稚園や保育所、施設における仕事の実際を理解、把握させている。</p> <p>現代コミュニケーション学科では、キャリアプランニングⅠ、Ⅱにおいて業種や職種を理解させ、学生にとって「働く」ことの意味について考えさせることによって、仕事観や職業観を養わせている。また、内定者には、キャリアプランニングⅢ、Ⅳにおいて内定先の企業研究や就職後に必要な一般常識やマナーを習得させている。これらは、短大生としての初期キャリアを形成させると同時に、早期離職の防止にもつながるものと思われる。</p> <p>さらに、ゼミ担任やキャリアサポート室職員が在学中から学生との良好な関係をもつよう努めることで卒業後も相談できる態勢を整え、早期かつ安易な離職の防止を図っている。</p> <p>また、離職した卒業生に対しても相談や必要に応じて再就職先を提案し、離職防止や離職後のフォローを行っている。</p>
	<p>現代コミュニケーション学科の就職先に自己開拓分が多いのはなぜか。学生のキャリアサポート室の利用状況はどうか。</p>	<p>現代コミュニケーション学科の学生にとって、本学に送付される企業からの求人票のみでは学生全員が希望業種・職種に就職することが困難であるため、就職に関する求人情報サイトの利用も推奨している。このことが、自己開拓分の就職者数を増加させているとともに、学生の自発的かつ積極的な就職活動に影響し、就職率の増加にもつながっていると思われる。</p> <p>キャリアサポート室の利用状況は、就職活動が実質的に行われる平成22年5月～8月において総計268名の学生が履歴書やエントリーシート内容の確認、面接の練習を目的として利用し、そのほとんどが現代コミュニケーション学科学生であった。</p>
P48	<p>ホームページの構築と求人情報の提供についてご検討のことですが、自宅から大学に来て職員と話す機会が減ることと、企業から送ってきた求人票を再度システムに入力する作業が発生すること、などから本学では紙の求人票と学生への一斉メール配信での運用となっています。就職情報の提供手段について、どのような点を一番重視されて運用なさっているのか、今後の方針も含めて教えてください。</p>	<p>本学においても、学生の就職動向や希望先の把握などの観点から、企業から送付された紙の求人票を掲示し、必要に応じてコピーの配布、メールによる情報提供を実施している。</p> <p>就職情報は、早急かつ正確に学生に提供することを重視しており、求人票の掲示では就職活動等で多忙な学生が情報を十分に把握できているとはいえないため、ホームページの構築など学生が短大外からも情報確認できる方法を検討している。</p>
	本学国際コミュニケーション	保育学科では、実習やボランティアによって実際の

	<p>ン科では、1年次の必修として「キャリアデザイン」という科目を設置しています。</p> <p>自己理解から職業観の育成、進路決定に向けての準備、などを行う科目です。貴学では、正課科目としてのキャリア教育関連科目はどのように位置づけられているか。</p>	<p>仕事を体験するとともに、年に数回行われる園長などの講演によって幼稚園や保育所、施設における仕事の実際を理解、把握させ、自己の適性判断や職業観の育成を行っている。</p> <p>現代コミュニケーション学科では、1年次～2年次にかけて「キャリアプランニング I～IV」を学科必修科目として開講している。1年次では自己理解や職種・業種理解から履歴書での自己PRの方法、また作文・小論文対策を行い、進路決定で必要とされる知識や技術を習得させていている。2年次では個人面談を中心に就職活動への動機づけを高め、進路決定者には卒業後に必要とされるマナーや一般知識などを習得させている。なお、1年次2月に就職セミナーを実施し、模擬面接を中心とした就職試験対策を行い、学生の就職活動への具体的な動機を高めている。</p> <p>また、両学科共通の基礎科目として「Career Studying」を開講し、保育学科においては群馬県私立幼稚園教諭適性検査や群馬県保育協議会保育士採用統一適性検査、現代コミュニケーション学科においては一般常識試験やSPIの対策も視野に入れ、授業を行っている。</p>
P49	<p>「コース制によるコミュニケーション力が発揮された成果」(就職率の高さが)とあるが、その関連づけを説明してください。</p> <p>また、「キャリアプランニング」の授業とキャリアサポート室の係わりはどうか。</p>	<p>現代コミュニケーション学科では、学科必修科目として「現代コミュニケーション論」「心理コミュニケーション論」などを開講することで、コミュニケーションに関する基礎的な知識を修得させるとともに、コースと関連する専門科目を選択科目として開講することで、コミュニケーションに関する専門的・応用的・実践的知識を修得させている。</p> <p>さらに、所属コースに関連する科目だけでなく、所属外のコース関連科目も選択科目として単位修得が可能とすることで、多面的で幅広い知識を修得することを可能としている。</p> <p>このようなコース制を中心としたコミュニケーション知識の修得が結果的にコミュニケーション力を高め、進路決定時に有意な効果をもってそれが発揮され、高い就職率につながったと考えられる。</p> <p>「キャリアプランニング I～IV」は学科の必修科目であり、専任教員とキャリアサポート室が内容に応じて連携している。</p>

基準III 教育資源と財的資源

基準III-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している

ページ	質問	回答
P53	<p>教員組織について、専任教員は何人いるのか。</p> <p>専任教員の数が多い印象があるが、担当コマ数もまた多い。開講科目数、非常勤の教員数との関連も含めて、その理由をお教えいただきたい。</p>	<p>平成24年4月1日現在は、2人である。 (22年度5人、23年度4人)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専任教員の担当科目数(24年度)は、保育学科は、23名で56科目、現ゴ学科では、9名で65科目 非常勤講師の担当科目数(24年度)は、保育学科は、37名で24科目、現ゴ学科では、26名で47科目である。 <p>貴学では、演習科目の殆んどと語学科目の全てが講義科目並みに2単位のカウントとなっておられますが、本学では大綱化以前の基準(講義15回授業で2単位、演習と語学15回授業で1単位)を遵守してきたことによるもので、ご質問のとおり教員数、担当コマ数</p>

		<p>が多い状況である。</p> <p>本学では、単位制度の再検討（演習科目および語学科目の2単位化、実技系・実習系科目の強化と資源の重点配分、リメディアル教育の抜本的強化）を進めていくこととしている。</p>
P55	教員の担当基準コマ数7とは、春学期と秋学期にそれぞれ7コマを担当するということか。	<p>専任教員は、通年7コマを基準に設定している。 (参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> 通年7コマの基準を上回る者が17人(保育10、現コミ7)存在する。 基準コマ数を超えた場合、9コマを上限として超過コマ数1コマ当たり一定額の手当を支給している。

基準III-B 物的資源

ページ	質問	回答
P57	<p>学内ネットワーク・情報コンセントを設置となっているが、サーバーの集中管理及び光ファイバー並びに無線LANはどのようにになっているのか。</p> <p>PCについて、無線LANの設置有無、CALLの稼働状況、プリントアウトの制限についてお教えいただきたい。[H19 総合評価報告書 P30に同様の質問あり]</p>	<p>サーバーは、空調管理されたサーバー専用室にて集中管理している。</p> <p>無線LANは設置していない。</p> <p>現在のところ、使用者数がそれほど増えないだろうということから見送られている。</p> <p>光ファイバーは、インターネット回線と体育館等の遠距離施設との間に引かれている。</p> <p>学内LANは100Baseとなっており、現在1000Baseへの改修を予定している。</p> <p>無線LANは設置していないが、ラウンジ等の学生が集まる場所への設置を予定している。</p> <p>学内のCALLはライセンスが切れるため、順次学外のCALLシステムへの移行を行っている。</p> <p>学内のCALLは英語コミュニケーション（上級）の講義で1コマのみ利用しており、通常の英語コミュニケーションは学外のCALLを5コマ分利用している。</p> <p>プリントアウトは、学生が印刷用紙を用意することとし、システム上の制限はかけていない。</p>
	学生用のPCを用いた自習は第1PC教室でとのことですが、この教室が授業で使われる場合はどのようにになりますか。PCを用いた自習環境の運営方法、そして何か課題がありましたら教えてください。	<p>原則として授業は第2PC室で行うようにしている。</p> <p>第1PC室を自習で利用する場合は、教務課を通して利用登録をしてから利用させている。</p> <p>課題としては、教務課を通さずに利用する学生がいることやPCのトラブル発生時に放置されてしまうことがある。</p>
	情報システム関連を管理運用する部署はどのように設置され、どのぐらいの人数のスタッフを置いているか。	特にこのための管理運用部署は設置されていない。教員・事務局員のメンバーで構成されるIT教育推進委員会(7名程度)が対応している。
	情報システムに関しては、すべての学科、科目的要望を聞いたうえでのシステム導入は難しいことと思います。各部署からの要望はどのように吸い上げ、そして調整しているか。	各部署からの要望を受け、IT教育推進委員会で検討・調整を行い、運営委員会（予算要求事項）に諮ることとしている。

基準III-B-1 学科専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している

ページ	質問	回答
P58	LL教室・マルチメディア・MLのそれぞれの教室について更	中期計画としては考えていないが、特にLL教室については、関係委員会からの要望を受け、「PCもCALLシ

	新等を考えているようですが、中期計画をお考えか。	ステムも使える普通教室」として平成25年の更新に向け予算要求することとしている。 他の更新計画については、各学科の要望を踏まえ教務委員会で取り纏め、運営委員会で協議のうえ予算要求することとしている。 過去5年間では、教育環境整備事業を重点施策として、演習棟の新設、教室・学生食堂・カフェテリア・トイレ等の改修及び植栽整備を計画的に実施してきた。
--	--------------------------	--

基準III-B-2 施設設備の維持管理を適切に行ってている

ページ	質問	回答
P59	グラウンドの整備はされているのか。どのくらいの間隔で行っているのか。	定期整備は行っていないが、砂の補充・ならし等の整備を状況に応じ行ってきた。 平成25年度から現代コミュニケーション学科「スポーツ科学コース」新設に伴うグラウンド整備について、検討を進めているところである。今後は、定期的に整備をすることとしている。
	学生駐車場は大学の敷地内に確保しているのか。また、何台分の駐車が可能で、年間維持費はどのくらいの費用をかけているか。	学生駐車場は、大学敷地内に平地の駐車場を確保しており、現在420台の駐車が可能。駐車場の年間維持費としては夜間照明電気料約35万円、照明器具のメンテナンス費年間約10万円の計45万円程度である。 その他駐車場補修工事として、昨年度は南側駐車場舗装550万円、今年度は駐車区画線補修50万円の工事を実施した。
	学生の駐車場の貸出は有料であるか。	学生駐車場は、学生課を通し利用登録により駐車許可し、無料としている。
	午後4時から巡回警備を行っているようですが、朝から4時までは、どのような警備体制なのか。	昼間については、教職員の業務場所が校内に分散していることや、建物間の移動も多いこともあり、朝から4時までの警備は行っていない。

基準III-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

ページ	質問	回答
P61	図書館が目指す「学ぶ図書館」「楽しむ図書館」のコンセプトとはなにか	学内図書館の第一使命は学習支援であり、そのバックアップはもちろん、課題のための利用ばかりではなく、広く図書館資料を楽しんで欲しいと考えている。のために、学生が手に取りやすい資料の選択や、DVDでの映画鑑賞、企画展での資料紹介等を行っている。また、このことにより、図書館に親しみを持ち、学生生活の一部となってほしいと考えている。
P62	長期休業中の貸し出し冊数無制限の効果はどのようなものか。	時間的ゆとりのない学生に、長期休暇中に日頃に読めなかった本を大いに読んでもらおうと考え、冊数無制限を恒例としている。学生全体に活発な利用があるとは言い難いが、日常から貸し出し利用が活発な学生が、夏期に実習がある保育学科2年生などは多く利用しているので、有効かつ必要と考えている。
P67	個人研究費について学会の出張旅費は、年額30万円とは別に支給されているのか。	学会等の出張旅費は、基本的には個人研究費予算内で支給することとしている。不足を生じる場合は予算管理事務局と協議することとしている。
P71	事務職員の配置について、定期的な人事異動となるが、異動に当たっての原則はあるのか（年数、ローテーションなど）。	人事異動に当たっての原則はありませんが、同一業務を長期にわたり勤務させることは避け、多くの業務（法人本部、短期大学及び高等学校）を経験することにより、幅広い知識を得たうえで、適材適所の配置を

	定期的な人事異動の実施とは、どの位の期間で行われているのか。 職員の適材適所の異動はどのように決定しているのか。	行うこととしている。 報告書 71P の「過去 3 年間の人事異動実績表」のとおり、同一部署を長期間固定の者を対象とした人事異動を行っており、事務組織の活性化に寄与している。
P72	情報システムにかかるより広い意味での「情報セキュリティ」については、どのように捉え、具体的に組織の中に浸透されていくかお考えか。年に 1, 2 回程度全学必須の講習会などは検討されているか。	ユーザーに意識させることを目標としてファイアウォール等を設置している。 ただし、USB メモリを利用したデータの持ち出し等には対応できないため、今後の課題となっている。 現在講習会等は行っていないが、定期的に開催できればと考えている。
	防災用に食料及び飲料水並び毛布等の蓄えはどの程度のものを常備しているのか。	現在、防災用備蓄はしていない。県・市・地域自治会等からの防災避難施設とはなっていないが、今後、検討する必要があると考えている。
P75	職員の時間外勤務時間の削減について、管理制度を導入した経緯と削減による効果と問題点はなにか。 時間外勤務時間が毎年減少となっているようですが、平成 20 年に時間外勤務管理制度を新規設定されたようですが、その内容はどのような制度か。	従前の時間外勤務管理は、各職員の自己申告(勤務タイムカード添付)を各課管理職の確認印により 1 月分を取り纏め勤務報告していたもので、必ずしも厳格な時間外勤務管理体制(各職員間の時間外業務内容、合理性等)でなかったこともあり、長時間外勤務による職員の健康管理面及び事務改善合理化を図るべく検討を進め、平成 20 年 8 月より時間外勤務管理制度を整備した。本内容は、①職務内容の見直し②各課管理職の事前勤務命令による③時間外勤務管理簿(時間外勤務を行った都度、個人別ホルダーに勤務時間・業務内容を入力、管理職閲覧可)の作成④17 時を廻ったところで終札を行い業務確認する(各課単位) 管理制度設定の結果<群馬育英学園全事務職員> 19 年度の時間外勤務総時間 3,845 時間 23 年度の時間外勤務総時間 1,598 時間 のとおり、実績を上げることができた。

基準III-D-1 財的資源を適切に管理している

ページ	質問	回答
P81	資金等の保有・運用について定期預金等で長いものは何年の運用をされているか。	自己点検・評価報告書に書いてあるとおり、余裕資金が豊富でない現状であるため金利が上昇傾向の時は 1 ~ 3 か月定期預金とし金利情勢をみきわめ、1 年間の定期預金としている。ここ数年の低金利の時は 1 年の定期預金として更新継続運用している。特に運用資金という考えは持たず、いつでも支払に充てることの出来る資金と考えている。

基準III-D-2 量的な経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している

ページ	質問	回答
P85	教育研究経費比率が 21 年度～徐々に低くなっていますが、収入に対して支出額がどのくらいであるかを把握管理はされているか。	すでにお気づきのとおり帰属収入の増加によって教育研究経費比率が低下してきている。収入に対しての教育研究経費の支出額は予算できめられている。この予算段階で経費比率を把握し予算執行によって管理している。

基準IV リーダーシップとガバナンス

基準IV-A 理事長のリーダーシップ

ページ	質問	回答
P94	短大において適材適所を基礎として世代交代を進めてきたようですが、どのように進めてきたのか。	現状では、定期的な職員採用は難しいなかで、少數精銳での職員配置<基準III-C、P71の回答を参照>により、必要に応じた若手職員の採用を実施している。

基準IV-B 学長のリーダーシップ

基準IV-B-1 学習成果を獲得するために教授会等の短期大学の教学運営体制が確立している

ページ	質問	回答
P95	男女共学化について、指定校入試を女子に限るとした理由はなにか。	保育学科の場合、男女共学化を検討する際に課題となつた点として、本学に対して幼稚園や保育所側から男性保育者を受け入れることに関する懸念が示されたため、AO入試や公募推薦、一般入試等により、保育者としての関心や適性などをしっかりと確認した上で入学を許可することを意図して、大学側の選抜というよりは高等学校側の意思が強調されやすい指定校推薦入試の導入を見合せたものである。
	「比較的安定を欠いていた教員組織」をどう変革したのか（質、量、年齢構成の変化と言うが）。	専任教員数は、19年度(28人)であったが、24年度(34人)までに6人増員し、年齢別構成では、30~40代(18人)が全体の約53%を占め、中堅・若手が中心層を形成してきている。 今後は、単位制度の再検討（演習科目及び語学科目の2単位化、実務系・実習系科目の強化と資源の重点配分、リメディアル教育の抜本的強化）を進め、担当コマ数減による教員の教育研究業績の向上、学生指導体制強化を図ることとしたい。
	平成22年度の共学化での議論の様子を知りたい。学園での男子の様子はどうか。現在での共学化への総括は。	保育学科の場合、男子学生の数が10人に満たないため、男子学生の存在感は余り強くは感じられないが、男子学生が学内での生活に違和感を示しているような様子も感じられない。授業への参加については更衣室やトイレなどの整備を行ったため、男子だからと言うことで特段の不都合が生じているようなこともなく、現時点では比較的スムーズに行っているものと推測される。 共学化への評価は卒業生を出してみないと何とも言えない面もあり、現時点では、上記したような経過があることにとどめ、総括は差し控えたい。 現代コミュニケーション学科では、学科の性格上、女子に限る理由はないということで、共学化に関する議論はなく、学生募集上も必要であろうということであった。現在2名の男子学生がいるが、問題なくしっかりとやっている。まだまだ少ないので、大きな影響は出でていないと思われるが、概ね良かったと考えている。
P99	保育学科の学科会議について、全員がそろわない会議が多いが支障はないのか。6名を欠く回もあるようですが。	公務出張等が重なってしまう場合もあるが、学科会議で検討された内容については、学科長や各学年の担当責任者からの情報提供や議事録等によって確認し、支障のないよう配慮しているが、会議と公務出張等の日程調整も併せて進め、会議への欠席者をなくすよう努めている。
P101	「免許更新講習」について、受講対象者を限定していますか（幼稚園？）。	特に限定していない。

P105	IT 教育推進委員会 この委員会において、教育に用いる情報システム関連の検討をなさっているとのことですが、大学を管理運営するための業務システムの検討はどのような組織にて行っているか。	大学を管理運営するための業務システムについても、同委員会で検討を行い、運営委員会に諮ることとしている。これを受け、サーバー等業務システムの管理担当部署（事務局管理課）が中心となり、管理運営に当たっている。
------	--	--

選択的評価基準

ページ	質問	回答
P107	語学研修の引率について、教員以外の引率については検討があったかどうか、その理由を含めてお教えいただきたい。また、旅程の計画、諸手配、安全確保の指導等、国際交流・協力を推進する組織の実際の業務についてお教えいただきたい。	現代コミュニケーション学科の語学研修の引率については、導入当初は現地の状況や研修内容の把握などを目的として本学教員が引率していた。しかし、研修先の現状が把握できることに加え、多数の授業を休講（補講）にしなければならないなどの教員の負担が大きいため、現在は教員が空港まで引率し、現地では在住のコーディネーターがホームステイ先や研修先まで引率している。 旅程の計画、諸手配、諸指導等は語学研修担当教員が随時指導しており、また観光系科目担当教員や旅行会社による指導等も必要に応じて行っている。
	保育学科において「保育学科米国保育研修」を実施しているが、大変大勢の学生が参加していると思います。募集の方法はどのようにされているか。また、研修成果についてはいかがか。	5～6月頃、昼夜みに海外研修説明会を実施し、そこで日程や内容、大まかな費用の見通しなどを説明している。説明会の開催は、2年ゼミの時間に周知しているが、海外研修は大学案内パンフにも記載しており、学生の関心は高い。客観的な研修成果を確認することは困難だが、まず海外経験自体が初めて、それに加えて異文化の子どもや保育に触れる機会が貴重であることは、参加した学生の多くが感じており、「勉強になった」というプラスの収穫を得て帰ってきている。
	現代コミュニケーション学科では10週間の留学プログラムを実施しているが、該当学生の単位読み替えなどの対応措置について知りたい。	10週間留学プログラム参加者に対して、留学先で学習した内容をふまえて修了証提示による認定科目、課題提出による認定科目をあわせて計12単位を上限として認定している。 平成25年度からは、留学プログラム参加者のみが履修し、単位修得できる科目を新設し、さらなる支援を行う予定である。
	保育学科も含め、4つのプログラムを実施しているが、短大として何か具体的な助成をしているか。学生の経済的な状況はどうか。	保育学科の海外研修については、具体的な助成をしていない。なお、研修の旅程管理を旅行代理店に委託しており、代理店が用意している旅行積立を希望者は利用できるようにしている。現代コミュニケーション学科の10週間留学プログラムについては、大学として希望者全員に20万円の補助金を支給している。
P108	海外研修等の費用補助（学外組織からの獲得）の見通しあるか。	現代コミュニケーション学科の留学プログラムにおいて、JASSO 留学生交流支援制度による奨学金（月額8万円）、ぐんま国際教育財団による海外留学奨学金（30万円）といった学外組織からの助成金制度を取り入れており、平成24年度には前者は参加者全員に対して助成し、後者は3名の学生が獲得している。
	卷末資料について、履修者少數による「閉講」措置というしくみはあるか。	原則として、受講者5名未満の科目に関しては閉講（開講せず）といった措置を行うこととしている。ただし、隔年開講科目や資格取得など、学生の必要性に応じて検討し、開講することもある。
	ハワイの観光実務研修を軌道に乗せるまでの経緯を知りたい。どんな現地連携を実現させたのか。	ハワイの実務研修について、導入当初は模擬挙式体験などプライダル系の研修だけではなく、ハワイ大学見学、現地のホテル見学など、さまざまな学生を対象として実施した。しかし、学生の興味、関心にあわせた

		<p>研修を実施するためには時間的な余裕がないことに加え、学生の経済的な理由から多くの学生が参加できなくなってきた。そのため、現在では最も希望者が多いブライダル系の研修に特化し、教会で模擬挙式を実施したり、ウェディングドレスの試着をしたりすることのできる企画を実施している。</p> <p>現地での連携は、旅行会社に研修内容を伝え、それに合わせた形でプランニングしてもらっている。</p>
P113	学生の地域活動に関して、「事前準備・事前学習」はどのような方法で実施されているか。また、教員がどの程度かかわりをもっているか。	<p>「地域活動」が指す範囲が非常に広大なため、個別の活動ごとに事情が大きく異なる。これらすべてにおいて統一された「事前準備・事前学習」を実施しているわけではなく、地域活動の内容によって、必要な準備や学習があれば実施している</p> <p>たとえば保育学科1年生に対して夏期休業中に保育現場でのボランティアを行うことを義務づけているが、活動に際しては当然事前に園の状況を知っておく必要があり準備に万全を期すよう指導している。</p>
P114	リカレント講座等においては、現場の保育者の参加数も多く、また学生も大勢参加しているらっしゃいますが、現場の保育者との連携など充実しているのか。また、参加学生は講座のサポートとして参加されるのか。	リカレント講座の広報を現場向けに行っていることや、これまでの実績として現場の問題に即した講座を開講することが多かったこともある。なお、学生も1受講者として参加している。
P115	「出前公演」は大変興味深いが、いつごろから始めたのか。公演依頼数・公演回数が大変多く、地域との連携あってのことであると思いますが、地域との関係性をどのように構築していかれたのか。	クラブの学外活動のあり方を検討した結果、平成16年に「出前講演に関する指導要項」を策定した。正式に出前講演として把握、様々なイベントに参加し、地域貢献をはたす中で認知度を高め、地域との連携・関係を築いてきている。

巻末教育課程表

	質問	回答
P9	保育学科とともに、現代コミュニケーション学科では、講義科目2単位、演習実習科目1単位と規定しているようだが、同じ時間使うのに演習では1単位しかもらえないと学生から不満はでないか。	学生からのそうした不満が、特に学科会議・教務委員会等の俎上に乗せられるに至ったことはない。おそらく、学生の間で広く共有された疑問とはなっていないものと思われる。もし学生から質問されれば、「講義科目の単位修得条件を満たした場合は、授業時間外の事前・事後学習も完遂したとみなすので、演習科目よりも多い単位数を与えることになっている」という、公式的な考え方を説明することになる。
	履修人数の割にクラス数の多い科目があるのはなぜか。例：17名で7クラス。	表の作り方が分かりにくかったかもしれないが、開設クラス数は当該学科学生が履修しうるすべてのクラス数である一方で、人数は当該学科のみの履修学生数となっている。つまり、実際の履修人数は、他学科学生も含めた、より多い数となる。 左の例（「英語コミュニケーションⅠ」）で言えば、これは全学共通科目なので、実際には他学科からも215名履修した。
	履修人数の欄が無記入のものは、不開講だったということか。	これも上記述と同様に表の作り方の問題であるが、科目名の列は入学から卒業までの全ての科目が記されている一方で、履修者人数は入学年度別に当該年度のみの人数が記されている。そのため、学年指定の科目では、人数無記入の科目が出てきている。

8. 各短期大学に対する評価できる点と今後の課題

(1) 清泉女学院短期大学について

評価項目	評価できる点	今後の課題
I 建学の精神と教育の効果	<p>①建学の精神について、カトリック的価値観に基づいて教育がなされ、学生に対してはさまざまな授業や行事を通して具体的に伝えられている。</p> <p>②東日本大震災後、学生のボランタリ一精神をうまく大学側が吸収し、建学の精神を精神的な裏付けにして有意義な支援活動として貴重な実績に結実させた点は、高く評価できる。建学の精神を体系化し授業科目や行事の中に織り込み学生に伝えようとしている点も評価したい。</p> <p>③教育の効果について、社会人基礎力の養成が課題とされ、各学科の教育目標にあわせて工夫されている。</p> <p>④教育目標について、学内にとどまらず広く社会的視野において求められており、学生の実践力、社会力を伸ばすことにつながっている。</p> <p>⑤「清泉スピリット5つの力」を明示していることは、学生が身につけるべき能力を学生自身だけではなく、教職員全体で意識的に共有できる工夫として評価できる。</p> <p>⑥「日々を大切に」「学生ポートフォリオ」などの独自素材によって学生に学習成果を意識させている点、成果を対外的に示す機会がしっかりと設けられている点を評価したい。</p> <p>⑦特に幼稚教育科において休学・退学者が非常に少ないと見受けられる。学科の性質上「0」が必ずしも最適とは言えない部分があるが、短大・学生双方にとって無益な結末となるケースを、多角的な工夫で極力押さえている証左であると評価できる。</p> <p>⑧学習成果について、国際コミュニケーション科では評価や単位認定のみならず、社会と学生のニーズにあわせた各種免許・資格の取得によって示されており、実際の成果も高い。</p> <p>⑨特記事項で提示された「中期計画」は、経営側と短大・学科側とが緊密なやりとりをしている結果として生まれているものであると思われる。これがあることで、経営側も短大・学科側も日々の運営の指針を共有することができ、迷いやブレを抑えることが期待できる点を評価したい。</p> <p>⑩自己点検・評価について、短大全体</p>	<p>①建学の精神について、カトリック的価値観を学生が卒業後の社会や就職現場で実際に表現できるように教育することが、社会人基礎力を目に見える形で示すことにつながると思われる。</p> <p>②キリスト教の理念を踏まえた建学の精神を、いかにしてキリスト教者でない学生にも身体化させていくかは、非常に重要な課題であるが、この点への意識を長期的な課題として持ち続け行動を起こしていくことが重要であると思われる。</p> <p>③成果の質をいかにして保証するかに留意しつつ、現代社会における「建学の精神」の実現を長期的な課題として意識せねばならないと思われる。</p> <p>④学習成果について、各種免許・資格の取得が学生の到達目標とならないように注意する必要がある。</p> <p>⑤学習成果について、採用時に企業が最も重視する点が資格・検定の有無ではなく、社会人基礎力やコミュニケーション力であることに教職員、学生とも留意する必要がある。</p> <p>⑥学習成果について、現在および今後の取り組みが実際に学生のためになっているかを常に意識し、実施することが必要である。</p> <p>⑦PDCAに関しては、CheckからActionに移す際に、検証結果からいかに具体的な改善内容を導き出して、遺漏なく実行に移していくかが最大の焦点であると思われる。学科や事務局ごとに読み合わせを通じて改善策を洗い出している点は評価できるが、それをさらに全学的に可視化するもう一段の工夫を望みたい。</p>